

# 国際交流センター

Dec. 2015 Vol.41

## NEWSLETTER

### 交換留学生の声

海外協定校への交換留学を終え帰国した学生達の声を集めました。あなたも交換留学してみませんか？

\*\*\*報告書の文章を一部抜粋して掲載しています。



### 今後の人生を支えてくれる宝

**大田 歩美** 文学部言語文化学科 4回生  
留学先：台湾 東海大学

台湾といえば台北！のようなイメージがあると思いますが、私が交換留学先に選んだ東海大学は、台中市というところに位置しています。台北でもなく、台南でもなく、台中。本屋にも、台北や高雄のガイドブックはどっさりあるのに、台中と大きく記したものはまったく見かけず、どんな場所なのか全然想像がつかないまま台湾へと旅立ちました。

不安がいっぱいでスタートした留学生活は、最初の三ヶ月間は本当にしんどく、帰りたくなることもしばしばでした。台湾は外食文化なので外で食べるにもなかなか自分の胃に合うものが見つからなかったり、注文で間違うのが怖くてなかなか店に入れなかったり。寮の布団が薄すぎて眠れなかったり、ウォーターサーバーの水が安全かどうかかわからずびくびくしながら飲んでいたり。先生もクラスメイトもルームメイトも親切な人ばかりでしたが、言葉が通じないのが怖くて、なかなか人と話そうと思えませんでした。

ただ、三ヶ月が過ぎ、耳が中国語に慣れ、生活上の勝手もわかってくると、台湾は本当にいいところでした。今となっては、日本に帰ってくるのが残念に思えるくらい、すっかりあちらの生活に馴染んだと思います。華語センターの授業は少人数制なので、わからないことを聞いたり、自分のペースで喋る練習をしたりするにはとてもよい環境でした。大学自体も、奈良女が10個ほどは入るのではと思うくらい大きく、自然が多い場所なので、大学内の違うキャンパスや牧場へ散策に行くのも楽しかったです。

「台湾で最も美しいのは、風景でもなく、美食でもない、人のやさしさだ」という言葉があります。日本人の印象の中にあるとおり、台湾の方はとても親切です。ですが、それは日本人相手に限ったことではありません。バスの中で道がわからず困っている人がいたら、まわりの乗客が次々に口を出して手助けしてくれます。学内外の飲食店には気さくな店主が多くて、注文してお金を払って商品を受け取る間にも、さまざまな話をしてくれます。台湾の人に道を聞かれて教えてあげると、日本人だということに驚かれ、身内に日本人と結婚した人がいるとか、どこに遊びに行ったことがあると嬉しそうに教えてくれる人たちがいます。

台湾には、東南アジアからやってきた人やアメリカ・ヨーロッパ圏から来る人も少なくなく、色々な言語と文化が混じり合います。そんな場所だからこそ、多様性を許容してお互いを尊重しながら生活していこうと自然と人に興味を持ち親切になれるのではないかと、私は思います。そんな台湾の風土と気候に感化され、私も台湾が大好きになりました。

留学は、決して何か特定のことを学ぶためだけの制度ではないと思います。行ったからはっきりした何かを得られるとかそういうわけではなく、経験そのものが、今後の人生を支えてくれるかけがえのない宝になると思います。



東海大学内にあるルーシー教会

### Inside This Issue



交換留学生の声



留学生のための文化教室



トビタテ！留学JAPAN  
日本代表プログラム



MIRAIプログラム留学生との  
交流会



理系女性教育開発共同機構主催  
アメリカ学生研修旅行  
SEASoN



センター及び国際課の活動  
& 来訪者

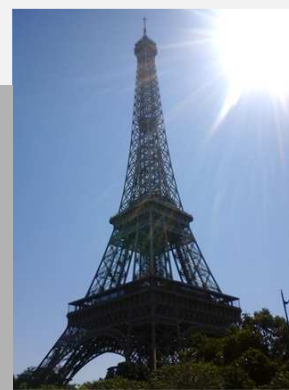
## 顔付きが変わるほどの成長

岩田 沙恵子 文学部人間科学科 4回生

留学先：フランス パリディドロパリ第七大学

私は2014年9月から2015年6月まで10か月間フランスのパリへ留学しました。フランス語は大学から始めたばかりだし、一人暮らしは初めてで、海外もまだ2回目。一人であれこれ行動するのもほぼ初めてだったので、出発まで自分も家族も不安いっぱいでした。しかし、パリは、そんな不安を一気に吹き飛ばすほど魅力的な町でした。パリにはたくさんの方がいます。日本人を含め、たくさんの外国人がいました。彼らから学んだことは、たくさんあります。フランス文化だけでなく、他の国の文化も知りました。

パリには美術館や博物館があふれていて、しかも多くが26歳未満のヨーロッパにある大学の学生であれば無料で入れました。その機会を利用し、あちこち美術館に行きましたが、それは私にはとても新鮮でした。美術館の他には、公園や広場もたくさんあって、天気の良い日は最高です。人と触れ合いたいならマルシェに行ったりパン屋さんに行ったり。気さくな方が多いのですぐ仲良くなれます。留学先の大学、パリディドロパリ第七大学は、パリの中では治安の良い、新興地区に位置します。私は心理学専攻で、心理学の授業をたくさん受講しました。



エッフェル塔

欲張って授業をたくさん受講したのは大変でしたが、日々の積み重ねは、フランス語の力にもなり、専門知識も身に付き、今でも毎日頑張ったことは自分の自信になっています。

日本語学科の先生や生徒さんを始め、大学には、サポートしてくれる方がたくさんいて、いつでも力になってくれました。彼らに質問に行ったりメールを送ったりすることだけでも語学の勉強になりましたし、毎日なんでも勉強でした。帰国してから、多くの人から「顔付きが変わった」、と言ってもらいますし自分でもそう感じます。長くも短くもあった留学期間は、私に大きな成長をさせてくれたようです。

## この波乱に満ちた一年は今後の私の道しるべ

トウ ホウ 文学部人間科学科 4回生

留学先：ベルギー ルーヴェン・カトリック大学

よく聞かれるんですが、ベルギーに留学して何語で話しをしているんだと。ベルギーの公用語は一つだけではないのです。私は北のFlemish語圏に属するルーヴェンに住んでいましたが、大学では英語で授業を受けていました。大学シティだけあって、英語でほぼ障害なく通じています。それが却って問題です。オランダ語を勉強する意欲が、激しく落ちました。またここは留學生の種類も様々です。正規生としてオランダから来る学生もいますし、ERASMUSから来る交換留學生もいれば、PECSというERASMUS以外のプログラムに入る交換留學生もいます。私は、まさにPECSプログラムに当たる交換留學生です。



ベルギー人の主食

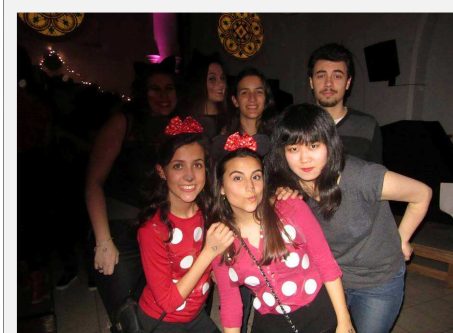
それが原因で、私が滞在している男女共同宿舎では、様々な背景から来る学生が住んでいます。ちょっと待つて？「男女」ですと？奈良女の学生にはちょっと刺激が強すぎるのではないのでしょうか。意外とこれは心配に値するほどの問題ではありません。どうやってこういう状況に馴染んで自在に対応するのかの方が課題です。共有スペースで、人と人の間、男女間と異文化間の距離感のコントロールを自分の思うままにするのは、やはり大変です。何回か挫折も味わいました。英語一つではやはりネイティブのココロを掴みづらいとも感じますが、幸い私と同様オランダ語ができないし、本気で勉強するつもりがない外国人留學生がたくさんいます。私が本気で勉強したいのはやはりドイツ語ですが、ドイツ語圏は大学より電車で1時間離れているところにあります。可愛くて小さな町です。

私がシェンゲン圏に初めて入った都市はドイツのフランクフルトでした。あいにく宿のエリアが想像より雑然としていて、日曜日なので街が寂しいという印象を与えられました。差別主義に聞こえるかもしれませんが、その時（今も）この街のイメージはヨーロッパではないと思いました。褐色や黒色人種の移民達と黄色人種（主に中国人）の観光客達で街が溢れんばかりでした。ヨーロッパに対しては、アメリカのような多人種国家という認

知がアジア人にはないと思います。他の欧米からの留学生と話している途中に、「ポリティカルコレクトネス」という概念がよく意識されます。それを守るべきだと主張する人もいれば、そういう態度に嫌気が差したのか強く反発してくる人もいました。それに対して我々アジア人はよく「レーシスト」だと呼ばれています。それは黄色人種が他の人種に対して余りにもステレオタイプにアバウトに評価することを指していると思われる。日本人のパリ症候群はその一例でしょう。とはいうものの恐らくまだアジアには本格的な人種差別主義は始まっていないと思います。広州では既にその兆しが見られています。

ルーヴェンに居る間、私を助けてくれた人、私が助けた人、私と友達になった人、私のライバルになった人、そして不思議な人など、様々な人に出会いました。最初に来た日に酔っ払い二人と犬一匹に絡まれ楽しくナンパされたり、その後なんと極道と自称する人に寮まで案内されました。自転車トレーニングレッスンで出会った統計学の講師、授業内でディベートの相手をしてくれたファティマさんなど、短い間ながらも色々なことを教えてくれた方々に恵まれました。

授業で扱われていなかったヨーロッパの移民ポリシーについても少し理解するようになりました。実際にナイジェリアから来たある難民の話を知ると、彼女はベルギー連邦政府の補助を受け、ここで看護師の教育を遂げられたということが分かりました。それに街中に沢山の



後期寮新入生歓迎会

子連れのスリム移民達がよく見られて、それが育児支援策に恵まれたということが分かります。それと比べて、少子晩婚化に見舞われた今日の日本はまだそのような措置が見られていません。

後期では、ビザ優待がない国に生まれた私にとってこれはまたもないチャンスですので、色々な国の友達とよく各国を巡るようになりました。自転車で通学し、体力をつけるため、ジム通いを始めるなど体の健康管理にも目覚めてきました。ルーヴェンとブリュッセルとの間を友達と自転車で往復した事もあり、ルクセンブルクで自転車で山を乗り越えたこともありました。色々な課外活動でいい思い出がたくさん作れて、悔いのない時間でした。また自分に挑戦できることもあると実感し、今後の研究や就職の可能性にも繋がっています。

また、授業中にドイツ語で質問したりドイツ語でやり取りするのも楽しかった。ドイツ語を話しているときは地に足がつかないフワフワした、魔法のような感覚で初めの方は不安になった時もあったが、きちんと納得してやり取りができると達成感がとても大きかった。

留学前に知らなかったことの一つに英語の重要性がある。留学前はとりあえずドイツ語の勉強を必死にやっていたので、現地の語学コースでは中級クラスに入ることができた。しかし、留学生間の会話で私は置いてしまった。それは、休み時間に皆、英語で話すことである。ドイツ語が出来ないクラスほど英語を使う機会が多い。上のクラスでは休み時間もドイツ語でやり取りする人ばかりだったので結果的にドイツ語はできるようになったが、逆に英語が話せなくなってしまった。話そうとしてどうしても恥ずかしくなってしまうのだ。これは私の今後の課題である。もし英語の重要性を留学前に真に理解していたら、現地のドイツ人だけではなくて他の国の人ももっと仲良くなれたかもしれない。それはとても悔しい経験で、いちばんの挫折だった。しかし、社会人になる前にこのような経験が出来て良かったとも言える。なぜなら、これから仕事をする上で英語でコミュニケーションを取る機会はどんどんあるからだ。良いアドバンテージを手に入れたということにする。



## 知らなかった世界に触れた

**大山 理穂** 文学部言語文化学科 4回生  
留学先：ドイツ トリア大学

私はドイツの西の街、ルクセンブルクとの国境の近くに位置する小さなトリアという街に留学した。今から思えば、私は本当に幸運な身分だった。入国、入学などの事務的な手続きはトリア大学の国際課に助けてもらえたおかげで問題なく済ませることができた。トリア大学の日本語学科や大学の合唱団で出会った人達は皆優しく親切で、彼らのおかげで私のドイツ語は飛躍的に伸びた。勉強熱心な韓国人の留学生と友達になり単語を覚えるタンデムを組み切磋琢磨した。彼女のおかげで、単語を覚えれば覚えるほど面白いほど話せるようになるという貴重な体験が出来た。



留学先の仲間と



## “自分らしく・今を生きる”ことの大切さ

**クロフォード後藤 花** 文学部人文社会学科 4回生  
留学先：英国 レスター大学

この1年間のイギリス留学は本当に多くの学び、気づき、そして変化を私に与えてくれました。今考えてみると、留学前の私は、くだらない価値観に縛られとても狭い世界で物事を考えていたように思います。留学中に様々な国の友達ができ、彼らと1年間過ごしたことによって多様な文化に触れ、自分の価値観や考え方が大きく広がりました。自分の“生き方”を考えさせられる出会いも多く、“自分らしく”いることや“今を生きる”ことの大切さを教えてもらいました。また、限られた期間の留学を有意義なものにしたいという思いから、何事にも積極的になったように思います。自分から人に声をかけるようにしたり、様々な課外活動に参加していく中で、知らない人の前で自分の意見を発言したり、新しい環境に飛び込んでいく度胸もついたと思います。自分の行動によっていかに可能性が広がるのか、ということに気がついたのもこの留学のおかげだと思います。



レスター大学



友人と

勉強面では、授業のシステムの違いや学生の勉強に対する姿勢の違いに驚かされました。日本の大学と違い、授業時間の少ないイギリスでは、授業は導入部分であり、残りは自学によって学習を深めていかなければなりません。大量にリストアップされた参考文献の中から、自分に必要な文献を探し、それをもとに予習、復習することが当たり前のように感じます。専門分野に関する知識やそれに対する自分の意見をしっかりと持っている学生が多く、セミナーのディスカッションの度に自分の知識の少なさを痛感していました。受身ではなく自ら学ぶことの大切さなど、彼らから本来の学習のあるべき姿を教わったように思います。

この留学を通じたもうひとつの大きな気づきは、“日本の良さ”についてです。留学前は日本の生活や文化についてあまり深く考えたことはなく、どちらかというと日本の嫌な側面ばかりを見ていた気がします。しかし、1年間日本を離れたことで日本について考える機会が増えました。友達に日本について聞かれることが多く、そのように人から質問されることで今まで気にも留めなかった事に気が付くようになりました。そうした中で見えてきたのは日本の素晴らしさでした。四季を大切にす文化やその中で育まれてきた伝統の食や行事は世界に誇れる日本の宝だと思うようになりました。



## 冗談が飛ばせるほど自分に自信がついた

**出口 朋香** 文学部言語文化学科 4回生  
留学先：英国 レスター大学

私は2014年10月から2015年5月まで、イングランドの中央に位置し、ロンドンまで電車で1時間の都市、レスターにある国立レスター大学に交換留学させていただきました。小学生のころからの夢であったイギリス留学、真新しい文化の中で、出会って間もない人たちと、楽しく毎日を過ごせることを夢見ていた私ですが、現実には全く甘くありませんでした。

まず莫大な予習の量です。学部によって量は大きく異なるのですが、私のところはとても多くをこなさなければなりません。ネイティブスピーカーでないというハンディキャップを背負いながら、奈良女子大学の代表として恥ずかしくない状態で授業に臨み

日本人ならではの発言で授業に貢献するためには、与えられた予習に加え、自分自身でもできるかぎり論文に目を通しました。授業でわからなかったところを復習しつつ、次の授業のための予習、という具合に始めのうちはドタバタでした。

そして次にネイティブの友人を作ること。文化が違えば、初対面の人に対するアプローチの仕方や仲の深め方も違います。それにネイティブの方たち同士の話はスピードが速く口語もたくさん使われるので、理解できないこともしばしばでした。完全に自信を失い大きな孤独を味わいましたが、日々頑張る中で、英語の論文を読むスピードが上がり、勉強の効率が上がりました。ネイティブとの交流が増えたことで心を開ける友人をつくることができ、どんどん生活が楽しくなってきました。

始めは辛くてたまらなかった留学生活もあつという間に時は流れてしまいました。帰国前、友人たちが開いてくれたパーティーでは冗談を飛ばせるほど自分に自信もつき、世界各地から来ている留学生、現地の方たちと忘れることのできない、素晴らしい時間を過ごすことができました。英語力もアップし、特にreadingでは、IELTSというテストで満点を取ることができました。

どれだけ辛くてもその時その時を一生懸命に頑張り続ける大切さを学べた留学だと思います。逃げ出したいと思うこともたくさんありましたが、努力し続けたおかげで、留学前の人生20年で考えもしなかったような貴重な体験、かけがえのない友人、これからも私を支え続けてくれるであろう大切な思い出を、たった一年足らずで得ることができました。



友人と歓談

## 留学生のための文化教室

国際交流センターは、留学生が日本の文化を学ぶ機会として、シリーズで授業を行っています。後期は、いけばな教室と茶道教室を行いました。それぞれの教室に6名の留学生が参加しました。



自分の作品と一緒に

### IKEBANA いけばな教室

この教室のおかげで、素晴らしい体験ができました。日本のいけばなは洗練されていて、それぞれの作品が深い意味を持つと分かりました。自分でいけばなをしたり、自分の作品と一緒に写真を撮ったりして、嬉しかったです。

田中先生は優しく、熱心にいけばなを教えてください有り難いです。ありがとうございました。

レー・クイン・チー（ベトナム）



茶道のお点前

### Tea Ceremony 茶道教室

僕にとって奈良女子大学で、初めて茶道の体験を受けました。指導役の樽井先生の手本を見て、小さな動きや振る舞いにさえ意味が含まれており、心に平和を与えようとすることを理解して、感動しました。早いペースで過ごす現代生活の中に、こんな風に心落ち着く機会を与える時間を入れればよいんじゃないでしょうかという結論を出しました。

アルミン・フォルカー・スタイネス（ドイツ）

# トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム

官民協働海外留学支援制度である「トビタテ！留学JAPAN」第3期プログラムに本学の学生2名が選ばれました。このプログラムは、日本から海外へ留学する学生を支援する制度です。申込みから選考、壮行会までの流れを選ばれた方に伺いました。ぜひ自分も留学したい！という方、先輩のプランを見て、応募を考えてみませんか？

**金池 綾夏** 理学部生物科学科 3年生

金池さんはトビタテ！を利用して現在本学の交換留学先であるイギリス、レスター大学に留学中です。

## その1. わたしの留学プラン

私は本学の協定校であるレスター大学での交換留学と、自然・野生動物の保全を行っている団体でのボランティア活動、という2つの軸から成る計画を立てました。レスター大学ではBiological Sciencesを専攻し、生物多様性や生態系について学んでいます。ボランティアは、イギリスに数多く存在するナショナルトラスト、その中でも特に知名度の高い団体であるWildlife Trustで環境保全活動をしています。活動を通してイギリスでの自然保全に対する市民の意識や、実際にどのような取り組みが行われているのかについて知りたいと思っています。

## その2. 今後の目標

私の夢は人と生物・自然をつなげる架け橋になることです。環境問題が深刻になっていくなか、より人が自然を身近に感じられるような環境を作りたいと考えています。具体的に自分がどんなことをやりたいのかは決まっていませんが、今回の留学を通して将来自分がやりたいことを明確化できればいいな、と思っています。そのために、留学中は勉学のみならず積極的に新しいことに挑戦し、多くの人とコミュニケーションをとり、自分の視野を広げるつもりです。楽しいことだけでなく辛いことも多いと思いますが、すべてを成長の糧にして勉学のみならず人間的にも大きくなりたいです。

## その3. 選考/審査の内容

審査は一次の書類審査と二次の個人面接・グループ面接（6名）の二段階でした。書類審査は自分をひたすら見つめ直す時間だったと思います。自分とは何者なのか、この留学の意義とは、将来は何がしたいのか、などを考えた結果気づけば一か月経っていました。二次審査はまず個人面接から始まりました。個人面接では書類にもとづいた質問が多く、特に留学以降の将来計画について回答を求められました。終始なごやかな雰囲気だったのでまるで「おしゃべりをしている」ような感覚でした。次のグループ審査では4分のプレゼンテーションのあと、グループで「留学で大切な3つのポイント」について20分ほどディスカッションしました。いずれも時間が限られているため、プレゼンは留学計画と目的、将来の夢をまとめたシンプルなものにし、グループディスカッションでは短くわかりやすく自分の意見を言うよう心がけました。二次は短い時間で自分をアピールしなければなりません。落ち着いて、そして何より自分の夢を語ることを楽しむことが大切だと思います。

## その4. 事前研修の内容

事前研修では自分の留学計画をとことんブラッシュアップします。グループで意見を交換し合いながら行うので、より現実的かつ内容の濃い計画を立てることができます。計画の見直しを通し、私は改めて自分の軸について考え、日本を発信するAmbassador、そして留学の魅力を後世に伝えるEvangelistとしての責任を感じました。また、ヤンググローバルリーダーなどグローバルに活躍されている方々のお話や、また同じ三期生とのコミュニケーションの中で多くの刺激を受け、たった二日間だったとは思えないほど充実した時間を過ごすことができました。

## その5. 最後に

「トビタテなんてすごい人しか受からないだろう」、とトビタテに応募しようか躊躇しているのであれば、迷わずぜひ挑戦してほしいと思います。確かに「スゴイ人」も多いかもしれませんが、どのトビタテ生にも共通しているのは「熱意と大きな夢」です。誰でもトビタテ生になる資格があります。トビタテに挑戦することで得られるものは多いですが失うものはないはず。このいい機会に、みなさんもぜひチャレンジしてみてください。



事前研修にて

# 渡英後のトビタテ！留学JAPAN

プログラムを利用して交換留学中の**金池綾夏**さんの様子

**私**は昨年9月末からレスターでの留学生活を始めました。私は本学の生物科学科に所属しており、入学当初からレスター大学で交換留学をすることを希望していました。夢がかなった今、私はレスター大学でも生物を専攻しているのですが最初は慣れない環境、つたない英語のため戸惑いも多くなかなか自分の思い描いていた生活を送ることはできませんでした。しかしレスター大学では留学生向けのイベントも多く、そういった交流を通じて次第に友達もでき、一緒に料理をしたり旅行に行ったりと今は留学生生活を満喫しています。



トビタテで約束したボランティア先にも乗り込み、毎月保全公園で行われるメンテナンス作業に参加させてもらえることになりました。勉強面ではまだ苦労の方が多いですが、その分理解できた時の感動と時々感じる自身の成長を糧に日々机に向かっていきます。

レスター大学では授業が1コマ50分と短く、また（生物科では）1学期に履修できるのがたったの3講義のみです。しかしその分集中して勉強ができるので個人的にはこちらの方が自分に合っていると感じています。驚くことにレスター大学にはキャンパス内にディスコがあったり学生寮のとなりにはパブがあったりと、みんな奈良女にはなかなかない方法で夜を楽しんでいます。Study hard, party hard、これがイギリス流の学生生活のようです。

官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」の第5期の募集が開始されています。興味のある方は、公式ウェブサイトをチェックして下さい。

<http://www.tobitate.mext.go.jp/>

## MIRAIプログラム留学生との交流会

去る12月18日(金)、「MIRAIプログラム」で来日中のチェコ、英国、スイス、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタンからの学生6名が本学を訪れ交流会が開催されました。

「MIRAIプログラム」(Mutual-understanding, Intellectual Relations and Academic exchange Initiative)は、欧州・ロシア・中央アジア・コーカサスの大学・大学院生150名に約1週間の日本体験を提供しながら、上記地域と日本を将来的にリードする若者の相互交流を目的として外務省欧州局が推進するプログラムです。

### クロフォード後藤 花 文学部人文社会学科 4回生

12月18日にMIRAI留学生との交流会に参加させていただきました。グローバルな視野を持った海外留学生との交流は、とても良い刺激となりました。参加者によるプレゼンテーションでは、それぞれの出身国についての発表があり、特に中央アジア諸国については今まで知らなかったことも多く、勉強になりました。中央アジアからの参加者のひとりが自国に高い建物がなく、東京で高い建物を見て驚いたと興奮して話していたこと、また彼の周りのほとんどの人が海外に行くチャンスがないと言っていたことが特に印象的でした。国による文化や生活の違いだけでなく、金銭的な貧富の差を改めて考えさせられるプレゼンテーションでした。また、MIRAI留学生の英語のレベルが高く、わたしも負けまいにもっと頑張ろうと思いました。今後もこのような交流会があれば、新しい発見や出会いがあると思うので、是非みなさんも参加してみてください。



交流会の様子

## 理系女性教育開発共同機構主催のSEASoNいよいよ出発！

2016年2月22日（月）から3月2日（水）までの10日間、奈良女子大学理系女性教育開発共同機構（CORE of STEM）主催のアメリカ学生研修旅行が実施されます。本研修では、80名以上の学生の応募があった中、競争率8倍の選考を通過した本学10名の学生が、アメリカ合衆国西海岸のサンフランシスコ、シリコンバレー、サンノゼ周辺にある海外有名企業・研究機関・大学、及びヨセミテ国立公園を訪れ学修活動を展開します。

具体的には、スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校におけるキャンパス見学、セミナーへの参加、現地に留学中の日本人留学生とのディスカッション、シリコンバレー及びサンノゼにあるICT最先端企業Google、Adobeで活躍する研究者とのセッション、NASAエイムズ研究センターの訪問等を予定しております。

注目!!!  
10/30(金)に  
募集説明会開催!  
会場:S228  
開始時刻:12:20~

SEASoN

Study Excursion to America for Students of Nara women's university

学生が海外で活躍する女性、ICT最先端の企業、アメリカの大学の授業に実際に触れ、グローバルな視野とコミュニケーション能力を身につけ、理数教育、リベラルアーツと文化を体感するためのプログラムです。 さあ、未来へ種をまこう!

2/22~23  
スタンフォード大学での授業体験

2/25  
Googleの研修

2/27~28  
ヨセミテ国立公園

2/24  
Adobeの研修

2/26  
NASAの研修

2/29  
カリフォルニア大学バークレー校の見学

研修期間:2016年2月22日(月)~3月2日(水)  
 研修先:スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校、Google、Adobe、NASA、ヨセミテ国立公園  
 対象:奈良女子大学及び大学院人間文化研究科の正規生  
 募集期間:10/30(金)~11/20(金)17:00まで  
 研修費用:10万円(総額40万円のうち、CORE of STEMが30万円負担します。)  
 募集人数:10名(応募者多数の場合は選考します。)  
 問い合わせ:理系女性教育開発共同機構 Email: coreofstem@cc.nara-wu.ac.jp  
 HP: http://www.nara-wu.ac.jp/core/index.html Tel: 0742-20-3457

## SPECIAL THANKS

グローバル教育の一環として、理系女性教育開発共同機構と連携し、本紙、国際交流センターNEWSLETTER Vol.41を発行しました。

## センター及び国際課の活動

- 2015/10/7 新入留学生オリエンテーション・チューターガイダンス
- 2015/10/23 JSAF留学説明会  
ニュージーランド研修第2回説明会
- 2015/10/28 外国人日本語スピーチ大会・  
学長主催留学学生懇親会
- 2015/11/10 ベトナム研修報告会
- 2015/11/18 留学生のためのいけばな教室
- 2015/11/25 留学生のための茶道教室
- 2015/11/30 国際ボランティア説明会
- 2015/12/11 JSAF留学説明会  
ニュージーランド研修第3回説明会
- 2015/12/3 奈良地域留学生交流推進会議主催日本語  
スピーチ大会
- 2015/12/18 MIRAIプログラム留学生との交流会  
ニュージーランド研修第4回説明会

## センター来訪者

- 2015/12/18  
MIRAIプログラム留学生6名（チェコ、英国、スイス、  
ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタンから）

**編集後記:** ニュージーランド研修参加学生9名が2月からニュージーランド、クライストチャーチにあるリンカーン大学に1ヵ月間の研修に出発します。今年もカンタベリージャパンデイに出展し地元の人達と交流する予定です。NEWSLETTER特別版をお楽しみに！（編集者:Yoko Sen）

**奈良女子大学 国際交流センター**  
NEWSLETTER Vol.41 2015年12月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町  
TEL: 0742-20-3736  
Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp  
http://www.nara-wu.ac.jp/iec/index/